

## 脱炭素化: 原則

### 2050年までの「実質ゼロ」実現の目標は、広く世界的な喫緊の課題と見なされている<sup>(1)</sup>

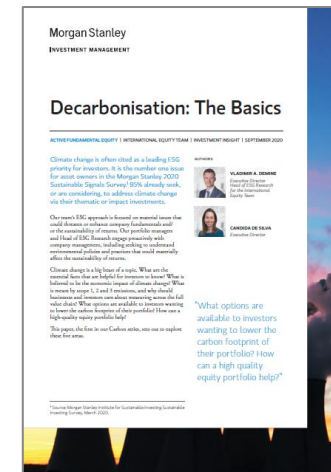
- 投資家にとって問題なのは、よりグリーンな経済になる際の**移行リスク**である
  - いくつかのセクターにとっては大きな資産価値の変化や、ビジネスを行うにあたってより高いコストが生じることに直面する

### 多くの直接的なCO2排出は低クオリティのセクターにある。今後は全セクターに渡って間接的なCO2排出に対する注目が高まる

- スコープ1および2（直接）排出の80%弱はMSCIワールドの公益、エネルギー、素材セクターに集中
- スコープ3（サプライチェーン経由と、製品使用による）排出は**数値測定が難しい**
- 多くの主要なグローバル企業は**スコープ3を測定し削減目標を設定することを試みている**

### 確信度の高い、高クオリティのポートフォリオに投資することはカーボンリスクにさらされることを低減する

- 投下資本利益率とCO2排出は強い**逆相関**にある
- 当然ながら、**無形のサービス**は低いCO2排出である（例）ソフトウェア、コンサルティング
- 通常、製品使用に伴うCO2排出は**低い、もしくは全く無い**（例）薬を飲む、スキンケア使用
- スコープ3排出はサプライヤーおよび家庭（消費者）が再生可能な製品に切り替えることで削減される**
- 高い粗利益率、価格決定力、そして継続的な売上に拠って、**業績が炭素排出量価格（カーボン・プライシング）に左右され難くなる**
- 脱炭素化の技術および政策による**混乱の影響を受けにくい**（例）逆に影響を受けているのは自動車セクター



無形資産を有する高クオリティのコンパウンダーを保有することは、ポートフォリオの長期のパフォーマンスを犠牲にすることなくカーボンフットプリントを大幅に削減することができる。

1. 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の「地球温暖化 1.5°Cに関するスペシャル・レポート」 2018年10月

上記は運用チームの見通しおよび見解によるものであり、必ずしもモルガン・スタンレーとしての見通しおよび見解を述べるものではありません。市場および経済環境などの変化により変更される場合があります。情報提供のみを目的としており、特定のセクターに属する銘柄の購入または売却を推奨するものではありません。上記の運用目標または運用戦略が全ての市場環境で良好なパフォーマンスを達成できることを保証するものではありません。